

2023（令和5）～2025（令和7）年度入学対象

副専攻ガイドブック



三重大学 共通教育

<https://www.ars.mie-u.ac.jp>

はじめに ― 副専攻制度とは

現代社会は多様な価値観に基づく複雑な社会です。卒業後にこうした社会で活躍するためには、所属する学部・学科・コースのカリキュラムに基づく専攻（主専攻）を学びつつ、それとは異なる視点の講義を履修し、幅広い教養と多面的な見方を学んでおくことが大切です。多くの先進的な大学では、主専攻とは異なる専攻（副専攻）を修得できるプログラムを開設していますが、三重大学では共通教育の教養基礎科目（副専攻科目）の中から関連する分野の講義を一定数修得することで、その分野の副専攻修得が認定されます。

ここでは Q&A 形式で簡単に三重大学共通教育副専攻制度を概観しておきます。

Q：副専攻分野はいくつありますか？

A：歴史・文化分野、環境・科学分野、健康・医療・福祉分野、教育・公共分野、社会・経済分野、国際・外国語分野の6分野です。

Q：副専攻修得は卒業するために必須ですか？

A：副専攻の修得は任意です。また、修得の要件を満たしていても、申請しなければ認定されません。

Q：副専攻の修得には何単位必要ですか？

A：教養基礎科目（副専攻科目）の同一分野から10単位以上を修得していることが認定の要件です。

Q：どの科目がどの分野に属しているのかは、どこを見たら分かりますか？

A：このガイドブックの科目一覧や「共通教育履修案内」で確認してください。また、教養基礎科目（副専攻科目）のシラバスには副専攻分野の記載があります。

Q：複数の分野に同じ科目名の講義があるのはなぜですか？

A：教養基礎科目（副専攻科目）は、学際的な異分野連携の科目が多く、複数の副専攻分野に登録されている科目があります。

Q：複数の分野の副専攻を修得することはできますか？

A：可能です。ただし、複数の分野に登録されている科目は、一つの分野の申請にしか使えません。

Q：何年生で副専攻の修得が可能ですか？

A：教養基礎科目（副専攻科目）の履修のペースは学部・学科・コースによって異なりますが、副専攻を申請する時期は全学共通で2年生終了時点（またはそれ以降）としています。これは、主専攻の基礎となる講義の履修が済んでから副専攻の認定を受けることが望ましいからです。

教養基礎科目（副専攻科目）の履修と副専攻制度

三重大学の共通教育は「大学基礎科目」、「教養基礎科目（副専攻科目）」、「専攻基礎科目」からなります。この冊子では、副専攻制度の対象となる「教養基礎科目（副専攻科目）」について、詳しく説明します。ただし、学部・学科・コースによっては、「専攻基礎科目」の中に「教養基礎科目（副専攻科目）」の科目が指定されている場合があります。それらは学部・学科・コースで主専攻の基礎となる科目として指定されているものなので、副専攻の修得単位としては認められません。「専攻基礎科目」については「共通教育履修案内」にある各学部・学科・コース別の履修単位表でよく確認してください。

分類	領域・分野		単位数
大学基礎科目	領域	スタートアップセミナー	2
		キャリア教育	2
		外国語（英語）	4
		データサイエンス	4
		スポーツ健康科学	1
教養基礎科目 （副専攻科目）	分野	歴史・文化	13
		環境・科学	
		健康・医療・福祉	
		教育・公共	
		社会・経済	
		国際・外国語	
専攻基礎科目	学部・学科・コースで指定		4～19

1. 教養基礎科目（副専攻科目）

教養基礎科目（副専攻科目）は多岐にわたる内容の授業が開講されており、大きく次の6分野に区分されます。授業科目によっては複数の分野に位置付けられているものもあります。

また、教養基礎科目（副専攻科目）として開講されている授業は、同一分野の科目を10単位以上修得し、所定の申請手続きを行うことで、当該分野が**副専攻として認定されます**。副専攻は一つの分野に限らず、複数の分野で申請・修了することが可能です。副専攻制度は、専門教育の専攻だけではない幅広い教養を身につけ、柔軟な発想や応用力、総合的理解力を育成することを目的とした制度ですので、各学部の専門（主専攻）とは異なる分野で認定を受けることを推奨します。

なお、副専攻としての教養基礎科目（副専攻科目）の履修および申請は任意です。

(1) 歴史・文化分野

情報化社会の発展に伴って、地域と密接に関わりつつ、グローバルな視点を持って活躍できる人材の育成がますます求められています。そのような人材に必要とされるのが、自国と諸外国の歴史や文化に対する深い洞察です。本分野では歴史、文化、思想、生活をテーマとするバラエティに富んだ授業科目を履修することができます。また、それによって、単一の価値観のみにとらわれない、豊かな発想と広い視野を獲得することを目指します。

哲学A	日本文化論A	言語学F
哲学F	日本文化論B	日本学
哲学G	西洋史A	三重学1
哲学H	西洋史B	P B L 数理科学
哲学I	西洋史C	物理学1
倫理学A	東洋史A	生物学1
倫理学B	東洋史B	自然科学概論1
倫理学F	東洋文化史	P B L 自然科学概論
倫理学G	演劇入門	環境科学1
倫理学H	日本文学A	音楽文化論
倫理学I	日本文学B	日本理解特殊講義1
宗教学A	日本文学C	日本理解特殊講義2
宗教学B	日本語学A	現代社会理解特殊講義4
宗教学C	日本語学B	国際理解実践1
宗教学D	比較文化論	国際理解特殊講義1
日本考古学A	文化人類学A	国際理解特殊講義2
日本考古学B	文化人類学B	国際理解特殊講義3
日本史A	人文地理学A	現代科学理解特殊講義1
日本史B	人文地理学B	P B L 現代科学理解特殊講義1
日本史C	人文地理学C	アントレプレナーシップ基礎A*2
日本史D	文化と空間B	アントレプレナーシップ基礎E*2
日本史資料学	言語学A	みどりのアントレプレナーシップ論*2

*2 2025（令和7）年度以降入学生対象科目

(2) 環境・科学分野

環境問題は様々な分野に関わる複雑な問題です。解決の糸口を得るためには、問題の本質を理解し、複合的な視点から洞察する力が必要です。また、環境問題に限らず、健康管理、原子力など科学技術の側面を持つ問題、社会的問題についても、数理学、物理学、化学、生物学をはじめ、自然科学諸分野の知見に基づいて判断する力が必要です。そこで、本分野では環境問題や様々な自然科学の基礎理解を深め、科学的な考え方を習得します。

スポーツ健康科学概論	物理学2	科学的地域環境概論Ⅰ*1
PBLアカデミック・ライティング	化学A	科学的地域環境概論Ⅱ*1
哲学Ⅰ	化学B	生物資源学A
経済学F	生物学1	生物資源学B
経済学G	生物学2	地域防災論
三重学2	生物学3	防災論
情報科学A	生物学4	日本理解特殊講義1
情報科学B	自然科学概論1	現代社会理解特殊講義1
情報科学C	自然科学概論2	現代社会理解実践1
情報科学D	自然科学概論3	現代科学理解特殊講義1
データサイエンスⅢ	PBL自然科学概論	現代科学理解特殊講義2
数理学A	医学医療A2	PBL現代科学理解特殊講義1
数理学B	医学医療B2	PBL現代科学理解特殊講義2
数理学C	医学医療C1	PBL現代科学理解特殊講義3
数理学D	環境学A	アントレプレナーシップ基礎B*2
数理学E	環境学F	アントレプレナーシップ基礎D*2
数理学F	環境地理学A	アントレプレナーシップ実践B*2
数理学G	環境地理学B	アントレプレナーシップ実践C*2
数理学H	環境地理学C	アントレプレナーシップ実践D*2
数理学I	環境科学1	みどりのアントレプレナーシップ論*2
PBL数理学	環境科学1	
物理学1	環境科学2	

*1 2024（令和6）年度以降入学生対象科目

*2 2025（令和7）年度以降入学生対象科目

(3) 健康・医療・福祉分野

人体の仕組みと働き、疾患のメカニズム、医学・医療の発展、健康管理、保健衛生、社会保障など、健康・医療・福祉を多面的な観点から理解することにより、深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を涵養するとともに、自律的・能動的な学修姿勢の醸成、地域活性化・グローバル化に対応できる力を育成します。また、スポーツ実践を通して他者との豊かなコミュニケーションを図るとともに、スポーツ科学や健康学の知見に基づいて、健康的な生活ができる自己管理能力を育成します。

スポーツ健康科学B スポーツ健康科学概論 PBLアカデミック・ライティング こころのサポート 心理学A 心理学F 経済学B 三重学2 化学A 化学B 生物学2	入門生物学 自然科学概論2 医学医療A1 医学医療A2 医学医療B1 医学医療B2 医学医療C1 医学医療C2 医学医療D 医学医療E 医学医療入門	国際保健と地域医療 PBL医学・看護学 環境学F 環境科学2 生物資源学B 日本理解特殊講義3 現代社会理解実践2 PBL現代科学理解特殊講義3 アントレプレナーシップ基礎B*2 アントレプレナーシップ実践B*2
---	--	---

*2 2025（令和7）年度以降入学生対象科目

(4) 教育・公共分野

個の成長を支え幸福を追求し、ひいては社会を維持し発展させていくための教育の諸問題を理解するためには、哲学、心理学、社会学、医学、数理科学などの幅広い知識を習得することが必要です。また、異なる考えや価値観の人たちが、どのように合意を作り解決していくかという公共の諸問題を理解するためにも、同様のことがいえます。本分野では、教育と公共の現代的諸問題に対応し解決を図ろうとする態度を、知識習得と探求・議論を往復する対話的で深い学びによって身につけていきます。

スポーツ健康科学概論	数理科学E	日本理解特殊講義 1
こころのサポート	数理科学F	日本理解特殊講義 2
心理学A	数理科学G	日本理解特殊講義 3
心理学F	数理科学H	日本理解特殊講義 4
法学A	数理科学I	現代社会理解特殊講義 1
法学C	物理学 1	現代社会理解特殊講義 2
法学F	物理学 2	現代社会理解実践 2
法学G	化学A	現代社会理解実践 3
政治学B	生物学 1	国際理解実践 2
政治学F	生物学 2	国際理解特殊講義 1
政治学G	生物学 3	国際理解特殊講義 2
P B L 政治学 2	自然科学概論 2	国際理解特殊講義 4
経済学B	自然科学概論 3	国際理解特殊講義 5
経済学G	医学医療A 2	P B L 現代科学理解特殊講義 3
人文地理学A	医学医療B 2	インターンシップ入門
人文地理学B	医学医療C 2	ピアサポート実践
人文地理学C	医学医療D	学習支援実践
文化と空間A	医学医療E	学生生活支援実践
文化と空間B	医学医療入門	ビジネスキャリア入門
文化と空間C	環境学A	社会連携型実践
三重学 1	環境学F	知財学
地域学	環境地理学A	アントレプレナーシップ基礎 A*2
情報科学A	環境地理学B	アントレプレナーシップ基礎 C*2
情報科学B	環境地理学C	アントレプレナーシップ基礎 D*2
情報科学C	環境科学 1	アントレプレナーシップ基礎 E*2
情報科学D	科学的地域環境概論 I *1	アントレプレナーシップ実践 A*2
数理科学A	科学的地域環境概論 II *1	アントレプレナーシップ実践 C*2
数理科学B	生物資源学A	アントレプレナーシップ実践 D*2
数理科学C	地域防災論	地域インターンシップ*2
数理科学D		

*1 2024 (令和 6) 年度以降入学生対象科目

*2 2025 (令和 7) 年度以降入学生対象科目

(5) 社会・経済分野

国際社会に対応できる能力を育成するために、社会・経済に関する様々な事柄を学びます。社会は、異なる価値観を持った多数の人が集まって形成されます。家族、労働、教育、地域社会、メディアなどの多くのテーマについて学びます。また、私たちが生活する上で問題となる、生産や消費売買などの経済活動について学びます。

P B L アカデミック・ライティング 西洋史 C 比較政治文化 心理学 A 心理学 F 日本国憲法 法学 B 社会学 A 社会学 B 政治学 A 政治学 B 政治学 F 政治学 G P B L 政治学 1 P B L 政治学 2 経済学 A 経済学 B 経済学 F 経済学 G 人文地理学 A 人文地理学 B 人文地理学 C 文化と空間 A 文化と空間 B 文化と空間 C 三重学 1	三重学 2 情報科学 A 情報科学 B 情報科学 C 情報科学 D 数理科学 H 数理科学 I 物理学 2 自然科学概論 3 P B L 自然科学概論 医学医療 C 2 環境学 A 環境地理学 A 環境地理学 B 環境地理学 C 環境科学 2 科学的地域環境概論 I *1 科学的地域環境概論 II *1 生物資源学 A 地域防災論 日本理解特殊講義 3 日本理解特殊講義 4 日本理解特殊講義 5 現代社会理解特殊講義 1 現代社会理解特殊講義 2 現代社会理解特殊講義 3	現代社会理解特殊講義 4 現代社会理解実践 1 国際理解実践 1 国際理解特殊講義 4 現代科学理解特殊講義 1 P B L 現代科学理解特殊講義 1 インターンシップ入門 ピアサポート実践 学習支援実践 学生生活支援実践 ビジネスキャリア入門 社会連携型実践 知財学 アントレプレナーシップ基礎 A *2 アントレプレナーシップ基礎 B *2 アントレプレナーシップ基礎 C *2 アントレプレナーシップ基礎 D *2 アントレプレナーシップ基礎 E *2 アントレプレナーシップ実践 A *2 アントレプレナーシップ実践 B *2 アントレプレナーシップ実践 C *2 アントレプレナーシップ実践 D *2 地域インターンシップ *2 みどりのアントレプレナーシップ論 *2
--	---	--

*1 2024（令和6）年度以降入学生対象科目

*2 2025（令和7）年度以降入学生対象科目

(6) 国際・外国語分野

異なる文化や言語を持つ人々と深く交流するには、その背景にある価値観に興味と関心を持ち、尊重することが求められるとともに、自身の主張を明確に伝える語学力とコミュニケーション力が必要になります。本分野では、様々な語学をはじめ、政治経済、教育、保健医療などのテーマにも関わる授業を通して、国際理解のための技能と知識を身に付け、演習などを通じて情報収集・伝達や相互理解の方法を実践的に学ぶことで、多様な文化・言語を背景とする人々と協働する力を涵養します。

英語 I TOE I C	国際理解特殊講義 2	ロシア語 I B b
英語 I 初級 TOE I C	国際理解特殊講義 3	スペイン語 I A a
英語 II 発展 A a	国際理解特殊講義 4	スペイン語 I A b
英語 II 発展 A b	国際理解特殊講義 5	スペイン語 I B a
英語 II 発展 B	ドイツの文化	スペイン語 I B b
英語 II 発展 C	ドイツ語 I A a	ポルトガル語 I A a
英語 II 発展 D	ドイツ語 I A b	ポルトガル語 I A b
英語 II 発展 E	ドイツ語 I B a	ポルトガル語 I B a
宗教学 A	ドイツ語 I B b	ポルトガル語 I B b
法学 F	フランス語 I A a	ドイツ語 II 総合 a
政治学 G	フランス語 I A b	ドイツ語 II 総合 b
P B L 政治学 1	フランス語 I B a	ドイツ語 II 演習 a
経済学 A	フランス語 I B b	ドイツ語 II 演習 b
言語学 F	中国の文化	フランス語 II 総合 a
地域学	中国語 I A a	フランス語 II 総合 b
生物学 4	中国語 I A b	フランス語 II 演習 a
医学医療 E	中国語 I B a	フランス語 II 演習 b
国際保健と地域医療	中国語 I B b	中国語 II 総合 a
日本理解特殊講義 2	朝鮮・韓国語 I A a	中国語 II 総合 b
日本理解特殊講義 5	朝鮮・韓国語 I A b	中国語 II 演習 a
現代社会理解特殊講義 2	朝鮮・韓国語 I B a	中国語 II 演習 b
現代社会理解特殊講義 4	朝鮮・韓国語 I B b	アントレプレナーシップ基礎 C* ²
国際理解実践 1	ロシア語 I A a	
国際理解実践 2	ロシア語 I A b	
国際理解実践 3	ロシア語 I B a	

*2 2025（令和7）年度以降入学生対象科目

2. 副専攻の申請時期および留意事項

(1) 申請時期

副専攻認定の申請時期は2年次以降の各学年末です。ただし、最終学年に申請を希望する場合は、最終学年9月までに全学共通教育センター (kyotu-kyomu[at]ars.mie-u.ac.jp ※[at]は@(アット)に置き換えてください。) に連絡してください。手続きのしかたはこのガイドブックの“4. 副専攻の申請手続き”を参照してください。

(2) 留意事項

教養基礎科目(副専攻科目)は1～3分野に属しています。複数の副専攻分野を申請する場合は、一つの授業科目は一つの副専攻分野の申請にのみ使用できます。重複履修した授業科目(「共通教育履修案内第2部3.(2)」参照)は、副専攻の申請では一つの授業科目として取り扱われます。

なお、専攻基礎科目として修得した教養基礎科目(副専攻科目)の単位を副専攻の単位に含めることはできません。副専攻の申請に使用できる授業科目は学部・学科・コースによって異なるため、「共通教育履修案内」を参照してください。

また、副専攻の申請は、専攻基礎科目の単位がすべて修得されていないと受け付けられません。

3. 副専攻の認定

申請手続きが完了し、副専攻が認定された場合は、卒業時に三重大学共通教育副専攻修了証が卒業証書とともに授与されます。副専攻修了証の再発行は行いませんので、大切に保管してください。

なお、就職活動等で卒業前に証明が必要な場合は、副専攻修了見込み証明書が発行されますので、そちらを使用してください。副専攻修了見込み証明書の詳細については、moodle コース「共通教育学生掲示板」で改めて案内します。

4. 副専攻の申請手続き

副専攻の申請は2年次以降の年度末(3月)に行ってください。申請期間の詳細は、「共通教育行事予定表」で確認できます(「共通教育学生掲示板」でも周知します)。期間外の申請は受け付けません。

申請は「共通教育学生掲示板」から申請用ファイル(Excel)をダウンロードし、下記の手順にしたがって行ってください。

【申請前の注意】

副専攻の申請は、所属学部・学科・コースの履修単位表の「専攻基礎科目」の単位をすべて修得してから行ってください。「専攻基礎科目」の修得単位が卒業要件を満たしていない場合は、「教養基礎科目(副専攻科目)」を10単位以上修得していても副専攻の修得は認められません。

【手順①】

“修得済み科目入力シート”の上部にある学籍番号・氏名のセルに入力してください。学籍番号は半角数字6桁です。

学籍番号(必須)	氏名(必須)
532625	共通 太郎

授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名	授業科目名
英語 I TOEIC	日本語A	文化人類学B	数理学D	環境学A	国際理解特殊講義3	授業科目名
英語 II TOEIC	日本語D	政治学A	数理学E	環境学F	国際理解特殊講義4	朝鮮・韓国語 I Ba
英語 I 初級 TOEIC	日本史科学	政治学B	数理学F	環境地理学A	国際理解特殊講義5	ロシア語 I Aa
英語 II 発展Aa	日本文化論A	政治学F	数理学G	環境地理学B	現代科学理解特殊講義1	ロシア語 I Ab
英語 II 発展Ab	日本文化論B	政治学G	数理学H	環境地理学C	現代科学理解特殊講義2	ロシア語 I Ba
英語 II 発展Bb	西洋史A	PBL 政治学1	数理学I	環境科学1	PBL 現代科学理解特殊講義1	ロシア語 I Bb
英語 II 発展Cc	西洋史B	PBL 政治学2	数理学J	環境科学2	PBL 現代科学理解特殊講義2	スペイン語 I Aa
英語 II 発展Dd	西洋史C	経済学A	物理学1	科学的地域環境概論 I	PBL 現代科学理解特殊講義3	スペイン語 I Ba
英語 II 発展Ee	東洋史A	経済学B	物理学2	科学的地域環境概論 II	インターンシップ入門	スペイン語 I Bb
スポーツ健康科学B	東洋史B	経済学F	化学A	生物資源学A	ピアサポート実務	ドイツ語 I Ba
スポーツ健康科学概論	東洋史文化史	経済学G	化学B	生物資源学B	学習支援実務	ポルトガル語 I Aa
PBL アカデミックライティング	演劇入門	人文地理学A	生物学1	地域防災論	学生生活支援実務	ポルトガル語 I Ab
哲学A	日本文学A	人文地理学B	生物学2	防災論	ビジネスキャリア入門	ポルトガル語 I Bb
哲学F	日本文学B	人文地理学C	生物学3	音楽文化論	社会連携実務	ポルトガル語 II Ba
哲学G	日本文学C	文化と空間A	生物学4	日本理解特殊講義1	知財学	ドイツ語 II 総合a
哲学H	日本語学A	文化と空間B	入門生物学	日本理解特殊講義2	ドイツの文化	ドイツ語 II 総合b
哲学I	日本語学B	文化と空間C	自然科学概論1	日本理解特殊講義3	中国の文化	ドイツ語 II 演習a
倫理学A	比較政治文化	言語学A	自然科学概論2	日本理解特殊講義4	ドイツ語 I Aa	ドイツ語 II 演習b
倫理学B	比較文化論	言語学F	自然科学概論3	日本理解特殊講義5	ドイツ語 I Ab	フランス語 II 総合a
倫理学F	こころのサポート	日本語	PBL 自然科学概論	現代社会理解特殊講義1	ドイツ語 I Ba	フランス語 II 総合b
倫理学G	心理学A	三重学1	医学医療A1	現代社会理解特殊講義2	ドイツ語 II Ba	フランス語 II 演習a
倫理学H	心理学F	三重学2	医学医療A2	現代社会理解特殊講義3	フランス語 I Aa	フランス語 II 演習b
倫理学I	日本国憲法	地域学	医学医療B1	現代社会理解特殊講義4	フランス語 I Ab	中国語 II 総合a
宗教学A	法字A	情報科学A	医学医療B2	現代社会理解実務1	フランス語 I Ba	中国語 II 総合b
宗教学B	法字B	情報科学B	医学医療C1	現代社会理解実務2	フランス語 I Bb	中国語 II 演習a
宗教学C	法字C	情報科学C	医学医療C2	現代社会理解実務3	中国語 I Aa	中国語 II 演習b
宗教学D	法字F	情報科学D	医学医療D	国際理解実務1	中国語 I Ab	
日本考古学A	法字G	データサイエンスIII	医学医療E	国際理解実務2	中国語 I Ba	
日本考古学B	社会学A	数理学A	医学医療入門	国際理解実務3	中国語 I Bb	
日本史A	社会学B	数理学B	国際保健と地域医療	国際理解特殊講義1	朝鮮・韓国語 I Aa	
日本史B	文化人類学A	数理学C	PBL 医学・看護学	国際理解特殊講義2	朝鮮・韓国語 I Ab	

次に成績通知書を見ながら、単位修得済みのすべての「教養基礎科目(副専攻科目)」のチェック欄に半角数字“1”を入力してください(次ページの図)。「英語 I TOEIC」については、火曜クラスで1単位、木曜クラスで1単位の計2単位をセットで履修しているの、原則として両方に“1”を入力してください。また、成績通知書の科目名に“【遠隔】”が付いている場合は、必ず本シートでも“【遠隔】”が付いている授業科目名のチェック欄に入力してください。間違って選択してしまった場合は、Delete キーで“1”を削除し、選択し直してください。

すべての科目の入力が終わったら、“確認シート”のシートタブをクリックしてください。

【手順②】

“確認シート”には手順①で選択されたすべての科目とその単位数、科目に対応した副専攻分野が表示されています（次ページの図）。

はじめに、表示されている科目の中で“専攻基礎科目”として履修したものを登録します。登録は専攻基礎科目のチェック欄に半角数字“1”を入力して行います。どの科目を“専攻基礎科目”として登録しなければならないかは、所属学部・学科・コースによって異なります。下表もしくは「共通教育履修案内」にある履修単位表で確認してください。

学部	学科・教育コース	登録すべき教養基礎科目（単位数）	該当科目の合計単位数
人文学部	文化学科	「英語 I TOEIC」（2）、専攻基礎科目として履修した未習外国語*（0～8）、副専攻の申請に用いない任意の教養基礎科目（8）	10～18
	法律経済学科	「英語 I TOEIC」（2）、専攻基礎科目として履修した未習外国語*（0～4）、経済学A～G（2）**、法学A～Gまたは政治学A～G（2）**	6～10** (10～14)
教育学部	数学教育コース	なし	—
	理科教育コース	副専攻の申請に用いない任意の教養基礎科目（0～4）	0～4
	技術・ものづくり教育コース	副専攻の申請に用いない任意の教養基礎科目（0～6）	0～6
	音楽教育コース	「音楽文化論」（2）、「演劇入門」（2）、副専攻の申請に用いない任意の教養基礎科目（0～4）	4～8
	学校教育コース（教育心理学）	「心理学A」（2）または「心理学F」（2）、副専攻の申請に用いない任意の教養基礎科目（0～6）	2～8
	英語教育コース	「英語 I TOEIC」（2）、専攻基礎科目として履修した未習外国語*（0～2）、副専攻の申請に用いない任意の教養基礎科目（0～4）	2～8
	上記以外の教育コース	副専攻の申請に用いない任意の教養基礎科目（0～8）	0～8
医学部	医学科	なし	—
	看護学科	「医学医療C2」（2）、「医学医療D」（2）	4
工学部	総合工学科建築コース	副専攻の申請に用いない任意の教養基礎科目（0～8）	0～8
	上記以外のコース	なし	—
生物資源学部	全学科	なし	—
		*：ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語のなかで専攻基礎科目として履修したものが対象となります。	
		**：令和6年度以降の入学生対象です。令和5年度入学生は「副専攻の申請に用いない任意の教養基礎科目（0～8）」を登録してください。	

①入力シートで選択した授業科目の一覧が表示されます。単位取得済みの授業科目に●がないことを確認してください。
 ②単位取得済みの授業科目が副専攻のどの分野に所属しているかが●で表示されています。
 ③副専攻の各分野名称の下には単位が表示されています。右はあなたがこの分野で単位取得済みの授業科目の合計単位数が表示されています。
 ④専攻単位表を参照して、所属の学科コースから専攻基礎科目を教養基礎科目から単位取得するように指定がある場合は、専攻基礎科目とする授業科目の「専攻基礎科目」の欄に半角数字の1を入力してください。
 ⑤単位取得済みの授業科目にて、申請したい副専攻分野の●の左の欄に半角数字1を入力して選択します。副専攻の各分野名称の左下に選択中の授業科目の合計単位数が表示されます。10単位以上になるように選択してください。
 ⑥専攻基礎科目とした授業科目を副専攻に選択することはできません。また、一つの授業科目を複数の副専攻分野で選択することはできません。
 ⑦取得済みの科目を入力シートに再入力する場合、このシートに表示される授業科目数が変わります。このシート(確認シート)で既に入力した内容が不一致となります。必ず、このシートの空欄の半角数字の1を全て消してから操作してください。

7	授業科目名称	単位	専攻基礎科目	歴史・文化		環境・科学		健康・福祉医療		教育・公共		社会・経済		国際・外国語		要確認	
				計	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中		修得済
				4	0	10	0	8	0	3	0	4	0	10	0		4
11	英語 I TOEIC	1															
12	英語 I TOEIC	1															
13	スポーツ健康科学B	1						●									
14	PBLアカデミックライティング	2						●									
15	哲学F	2		●													
16	宗教学D	2		●													
17	西洋史B	2		●													
18	演劇入門	2	1	専攻		専攻		専攻		専攻		専攻		専攻		副専攻の申請はできません	
19	比較文化論	2		●													
20	日本国憲法	2															
21	物理学2	2						●									
22	地域防災論	2						●									
23	音楽文化論	2	1	専攻		専攻		専攻		専攻		専攻		専攻		副専攻の申請はできません	
24	PBL現代科学理解特殊講義1	2		●													
25	中国の文化	2															

上の図は教育学部・音楽教育コースの例で、「演劇入門」と「音楽文化論」に“1”を入力し、専攻基礎科目として登録しています。

次に、各分野の“修得済”の欄を確認します。10単位以上であれば、その分野を副専攻として申請できます。上の図では、歴史・文化分野もしくは社会・経済分野で副専攻を申請できることが判ります。次に、申請する分野を決めて、申請に使う科目の“選択中”の欄に“1”を入力してください(下図)。一つの科目は一つの分野の申請にしか使えないので、この例では歴史・文化分野の申請のために「PBL 現代科学理解特殊講義1」をチェックすると、社会・経済分野で同科目を選択することはできなくなります。

7	授業科目名称	単位	専攻基礎科目	歴史・文化		環境・科学		健康・福祉医療		教育・公共		社会・経済		国際・外国語		要確認	
				計	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中	修得済	選択中		修得済
				4	10	10	0	8	0	3	0	4	2	10	0		4
11	英語 I TOEIC	1															
12	英語 I TOEIC	1															
13	スポーツ健康科学B	1						●									
14	PBLアカデミックライティング	2						●									
15	哲学F	2		1	●												
16	宗教学D	2		1	●												
17	西洋史B	2		1	●												
18	演劇入門	2	1	専攻		専攻		専攻		専攻		専攻		専攻		副専攻の申請はできません	
19	比較文化論	2		1	●												
20	日本国憲法	2															
21	物理学2	2						●									
22	地域防災論	2						●									
23	音楽文化論	2	1	専攻		専攻		専攻		専攻		専攻		専攻		副専攻の申請はできません	
24	PBL現代科学理解特殊講義1	2		1	●											10単位以上で選択されています	
25	中国の文化	2															

